



謡曲の普及指導

いし い の ぶ お
石 井 の 武 夫

(78歳)

住所

秋田市

昭和7年に謡曲宝生流に入門以来、謡曲の研さんを積まれ、昭和17年には秋田宝生

会の結成に尽力し、昭和24年に謡曲三流（宝生流・観世流・喜多流）合同大会を実現

し今日まで継続しているとともに、謡曲の全国大会、東北大会等に出演し、本県謡曲

界の評価を全国的に高めた。

また、本県において、宝生流東北大会や謡曲名所史跡巡りの開催に尽力したほか、

昭和55年には秋田県謡曲連盟会長に就任し、謡曲愛好家の育成、指導にあたり、謡曲

の普及、発展に大きく貢献している。



農業の振興

ち だ ちゅう き
千 田 忠 喜

(75歳)

住所

平鹿郡大森町

昭和16年から川西村産業組合、同農業協同組合の理事、平鹿郡山城堰土地改良区及

び川西中央土地改良区の理事長等を歴任する一方、秋田県土地改良事業団体連合会の

要職を多年にわたって務め、土地改良事業の推進に尽力している。

この間、農地の区画が狭少で不整形なことや洪水等の被害により、農民の生産意欲

が減退していく事態を憂慮し、管理組織体制の整備を図るとともに、土地・用水改良

事業、圃場整備事業の先達的役割を果して、秋田県農業とりわけ土地改良事業の発

展に大きく貢献している。



私学教育の振興

は 長 谷 川 こ 小 松
せ がわ まつ

(シスター・エマヌエレ)

(71歳)

住所

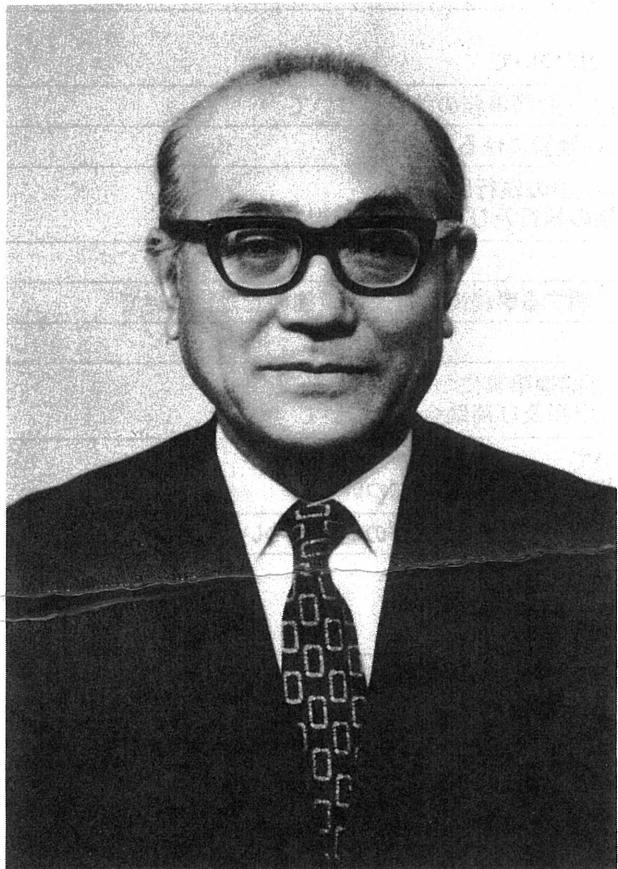
秋田市

昭和25年に秋田聖霊中学校ならびに同高等学校長として来県以来、女子教育の充実

に尽力している。

昭和29年、本県では初めての中学校・高校からの一貫した女子高等教育機関として創設された秋田聖霊女子短期大学の初代学長に就任してその基盤作りに努めた。

昭和36年からは副学長としてその円滑な運営に尽くすとともに、厚い信仰心を基とした情操豊かな教育実践を通してよき家庭人、社会人の育成に努め、さらに、県私立学校審議会委員として私学の振興、育成に大きく貢献している。



日本画の創作と 普及指導

さくら ばとう 櫻庭 次郎

(藤二郎)

(69歳)

住所

能代市

昭和3年以來、日本画一筋に取り組み、日本美術院展等に出品して数多く入選す

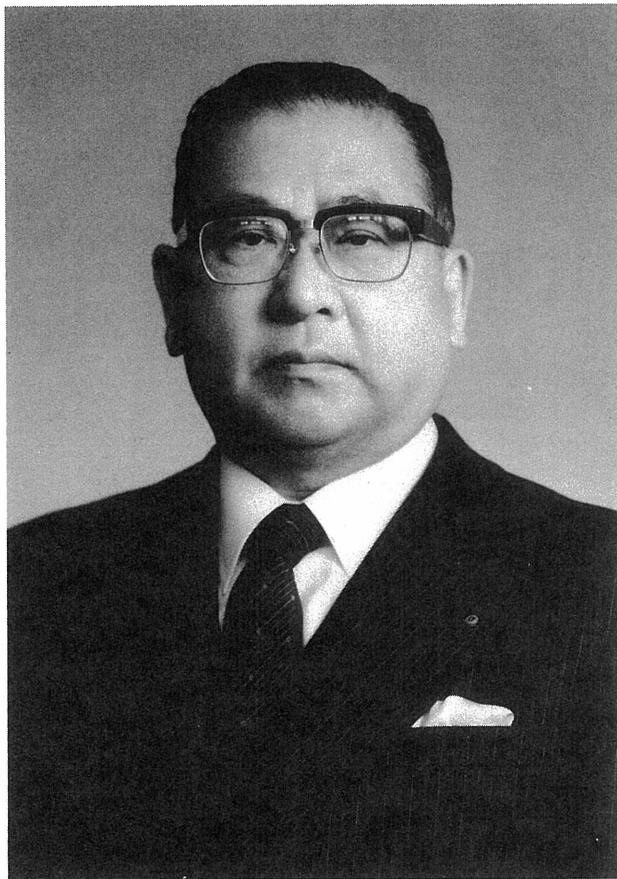
るとともに、県内各市で個展を開催し、日本画の普及と若手画人の育成に大きく貢献

している。

また、昭和46年には、秋田県日本画協会の結成に参画し、現在会長として会員の育

成に尽力しているほか、昭和51年には日本美術院特待に推挙されるなど、本県日本画

壇の重鎮として活躍を続けている。



精神衛生と 保険医療の普及

ほそ こし まさ かず
細 越 正 一

(68歳)

住所

秋田市

昭和27年に秋田脳病院長として就任以来、多数の患者の治療にあたる一方、県精神

衛生協会副会長、県精神衛生審議会委員として精神衛生の指導的役割を果している。

また、県医療機関整備審議会、県社会保険医療協議会、県国民健康保険審査会等の委員、委員長を歴任し、医療機関の整備充実、保険医療の普及、発展に大きく貢献

している。

その他、各福祉施設の嘱託医、県福祉関係機関の委員等を務め、幅広く福祉活動に参加し、福祉の向上、さらには秋田県公安委員、委員長として警察行政の充実、向上に尽力した。



郷土史の研究と編さん

わし
鷺

お
尾

あつし
厚

(62歳)

住所

秋田市

昭和19年から昭和45年まで、県内公立高校で教へんをとるかたわら、古文書の解読

を通して郷土史の研究を続け、昭和55年には、それまでの研究の一部を「解体新書と

小田野直武」として発刊し、秋田近世史、秋田蘭画史の研究に大きな功績をもたらす

とともに、佐竹藩の藩政史料である「国典類抄」の翻刻にも参画し、解題の執筆、編

集、にたずさわるなど郷土史の研究、発展に貢献している。